



燕市 澁木邸

# 青空の似合う家。

produced by Green House SHIMIZU  
text&photo by MASAHIKO watanabe , MASAKAZU kato



広い敷地の中に映えるクールデザインの箱型の家。それに彩りを添える緑の芝生。「大きな窓が開放的。シャープな風貌がカッコいい!」。外観を見た瞬間、そんな言葉が自然と飛び出すほど印象的でした。燕市の農家を営むご主人の実家の広い庭先の一角を利用して家を建てたとのこと。

今回ご紹介するのは、オシャレに敏感な澁木ご夫妻。もともとインテリアに興味があり、ご主人に至っては一人暮らしのころから将来自分がつくる住まいに置こうとデザイナーズ家具をコレクションして夢を膨らませていたとか。長岡市内で働くご主人と、新潟市内で働く奥さま。長年の交際を経た2人は、結婚後に新居に入居できるようにと婚約中から家づくりをスタートしました。友だちの中でも真っ先に家を建てるとあって、「後から建てる友だちの家を見て後悔しないように」と、二人でイメージを共有しました。そこで辿り着いたのは、「長く住み続けてもずっとステキな家」。そのためには「自分たちの意思が入った家にしたかった」。



「経年してもずっとステキに。それが私たちの理想でした」

プランが決まらないうちから待ち切れずに新しい家具を買ってしまう二人に、一時はビルダーも困ってしまうほどでしたが、そこはプロの腕の見せどころ。臨機応変にアイデアを駆使してプランニングすることで見事なまでに開放感溢れる家が完成しました。大きなフィックス窓のお陰で室内が常に明るく、「ウッドとスチール」という異なる素材を巧みに組み合わせたメリハリのあるクールな家になりました。オーダーメイドの扉や、離れの和室などの仕掛けがあるなど見どころ満載。

本文では家を建てる経緯といった楽しいエピソードなど盛りだくさんの内容になっています。それでは澁木邸と一緒に覗いてみましょう。〇→





